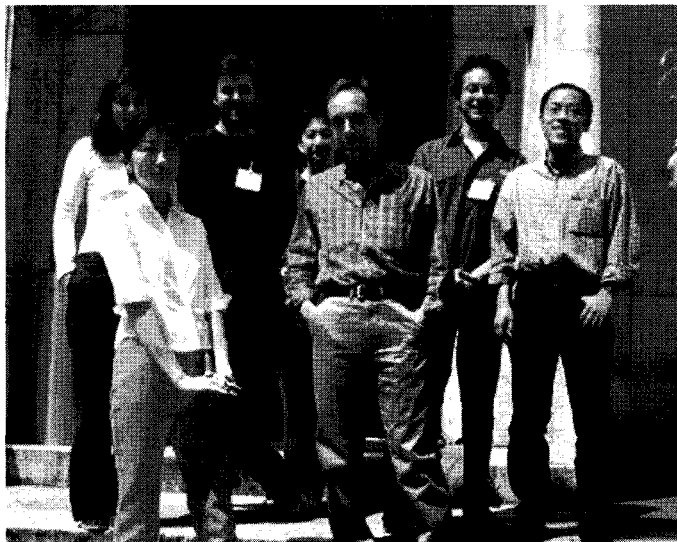


日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書

第 17 回 IAP Colloquium "Gaseous matter in galaxies and intergalactic space"は、NASA の FUSE (Far-Ultraviolet Space Explorer) によるデータが出始めたのを機に、星間および銀河間媒質について包括的に議論するためにパリで催されました。欧米の星間、銀河間媒質および銀河進化の研究者が一堂に会し、活発な議論が交わされました。私は、電離光子の輻射輸送に対するダストの影響について詳しく検討した成果をポスターで発表しました。

簡単に講演内容を振り返ってみましょう。前半は、FUSE の高スペクトル分解能を活かした銀河系内星間媒質の観測結果が多数紹介されました。たとえば Hebrard さんらによる重水素バルマー吸収線の初検出の報告があるなど、改めて FUSE の分解能の高さに感心させられました。後半は銀河や銀河団スケールの話となり、特に Grebel さんの局所銀河群銀河の規模とその星形成史の関係、Pettini さんの Damped Lyman α system の正体にせまる講演などが印象的でした。また Deharveng さんの、近傍の星形成銀河と遠方の Lyman Break Galaxies では電離光子の漏れ出し率がまったく異なるという講演も非常に興味深く思いました。これは宇宙の電離背景放射の起源に関する大問題であるので、いずれ近傍と遠方の銀河での電離光子輸送の違いについて解明していきたいと思っています。

ところで、本渡航では欧州の緯度の高さや文化の違いを実感しました。この時期(夏至の前後)のパリは夜 10 時ごろまで明るいのです。6 時すぎに講演が終わって会場の外に出ると、いつも日の高さに驚かされました。湿度も低く、梅雨の日本と比べるとまさに楽園です。また、エッフェル塔の



IAP の玄関にて。右端が筆者。(撮影は平下氏)

展望レストランで催された公式ディナーではフランス料理を堪能しました。そこから望む、夕日に色づくパリの町並みは素晴らしいものでした。余談になりますが、その席で IAP のポスドクの石丸さんが浴衣姿で現れたのにはみんな驚かされました。当日は夏至でしたが、この日は伝統的に音楽の祭典が行われているようで、多数のグループが町じゅうで路上ライブを行い、大変にぎやかでした。

本渡航が初めての海外旅行だったので往路の機中では色々不安でしたが、現地で平下さん(イタリア、アルチェトリ天文台)や北山さん(東邦大)と合流でき、大変お世話になりました。おかげで非常に楽しく過ごせました。お二人には改めて感謝いたします。最後になりましたが、有意義な渡航の機会を下さった日本天文学会ならびに早川基金関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

井上昭雄

(京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室 D2)